



2022年7月発行  
 社会福祉法人 ありのまま舎  
 (障害者自立企画)  
 発行責任者 白江 浩  
 編集 佐藤 環  
 〒982-8544  
 仙台市太白区西多賀4丁目19-1  
 TEL022(243)1300  
<http://www.arinonama.or.jp/>  
 E-mail houjin-arinonama@globe.ocn.ne.jp

1976年2月25日 第3種郵便物認可(毎週4回月・火・木・金曜日発行)  
 2022年7月8日発行 SSKO通巻11123号

### 第33回ありのまま生活福祉講座 ～3年ぶりにオンラインを併用して開催～

6月11日(土)、仙台市福祉プラザふれあいホールにて「第33回ありのまま生活福祉講座」が開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2年間お休みさせていたただいていましたが、座長の彬子女王殿下にご相談申し上げ、感染症対策を行い、会場的人数も70名前後に制限させていただきました。オンラインを併用しながら3年ぶりに開催することができました。



第33回ありのまま生活福祉講座

座長の彬子女王殿下にご臨席を頂きお言葉を賜りました。座長から御推薦をいただいた万九千神社宮司の錦田剛志様は出雲市より仙台の会場にお越しいただき対面でご講演くださり、普段はなかなか聞くことができないう祭りの起源を興味深く伺うことができました。元車椅子バスケットボール日本代表チームキャプテンの根木慎志様には東京からオンラインでご講演をいただき、東京で行われたパラリンピック

の貴重なお話しなどとても楽しい内容でした。それぞれに興味深く、お二人のお話に引き込まれとても分かりやすい内容でした。  
 生活福祉講座は会員制度を設け、会員の皆様の中には3年ぶりの開催を楽しみにしてくださっていた方もおられました。コロナ禍を乗り越え活動を再開することができたことを大変嬉しく思います。

### 薫る風

座長の彬子女王殿下をお迎えしての3年ぶりの「ありのまま生活福祉講座」は無事終了。会場の担当者や対応の変化、ライブ配信による専門業者との連携等三年前との相違に加え、久しぶりの「感覚」に戸惑いながらも、事故もなく終えることができ、ほっとしている。今回はおふたりの講師によるご講演を伺った。座長のご挨拶と講師のおひとりご講演のうちに何となくおふたりの講師のうちおひとりご講演のうちはライブでのオンライン講演だった。詳細は本紙紙面でご確認賜りたい。いずれも内容の濃さ、素晴らしさは変わらないが、やはり対面による息遣い、呼吸、雰囲気を感じ取れたことは良かった。アンケートでも対面での良さを多くの方が感じておられるようだった。感染リスクを恐れながらも、感染症対策をとり、細心の注意を払うことで実現できた。開催後一週間は健康管理に気を付けて頂きたいことや発症、濃厚接触の可能性が出た場合はご連絡頂きたい旨お願いしていたが、二週間経過してもご連絡はなかった。皆さん感染はなかったと思う。現在進行中の自立大賞の選考もオンラインによる会議と候補者の方々にもオンラインでお話を伺うなどしつつ、実際にお会いする機会を検討している。少しずつ恐る恐る日常に近づきつつある。入居者・利用者、高齢や基礎疾患のあるスタッフ等ハイリスクの方々への感染予防(重症化)を重点化するように対策も変化している。入居者の外出も増えている。面会時間や一回あたりの人数制限は変更ないが、回数は増えているように思う。もうすぐ夏まつりがある。地域の夏祭りは規模も日数も縮小して3年ぶりに行われる。花火は2年ぶりとなる。感染症対策をとりながら参加する方も増えてくるだろう。日常が戻りつつある。  
 (白江浩)

### 彬子女王殿下おことば



本日ここに、第33回ありのまま生活福祉講座が開催され、皆様にお目にかかれまことを大変うれしく思います。コロナ禍により、講座は2年間延期を余儀なくされましたが、3年ぶりにオンラインを併用して、開催が実現いたしました。実現までに尽力してくださった関係者の皆様に心よりの敬意を表します。

ありのまま舎は、1975年(昭和50年)、仙台市郊外にある当時の国立療養所西多賀病院に入院する、進行性筋ジストロフィーの山田寛之・秀人・富也の三兄弟に共感した多くの人達によつて設立されました。この度上梓した『ひげの殿下日記』の「山田富也という男」という章で、父は、「彼(山田富也)は二人のお兄さんが発想し、啓蒙し始めていた、いかなる障害を持つていようと、人生を「ありの

ままに生きたい」という理念を実践に結び付けていきました」と始まりの頃を語っておられます。資金獲得のための募金活動中、「皇族来仙反対!」というシユプレヒコールの中間議をされたこと、何度となく富也氏が父の旅先まで電話をかけて、難病ホスピスの建設を了解させてしまったことなどを例に、「こつこつ発想をする事、その実現に向かう事、そういう際の富也の心を巻き込んでいく情熱と説得力は、凄まじいエネルギーの裏打ちがありました。」と語っておられます。

この山田富也さんのエネルギーは今のありのまま舎にも息づいているように思います。父の薨去の後、ありのまま舎から熱烈なお手紙を頂き、「私は社会福祉の素人なので、父のようにお手伝いすることは無理です」と再三申し上げたにも関わらず、お諦め頂けず、「私のできる範囲でよろしければ」と、ありのまま生活福祉講座座長として、関わらせていただくことになりました。講師選びなどのお手伝いをさせて頂いておりますが、参加者の方から「今まで聞いたことのないお話だった」「新しいことを学んだ」などとコメントを頂

けますと大変励みになりますし、父が長年サポートをされてこられたことを、こうして引き継がせて頂いておりますことをありがたく思っております。

本日も二人の講師の方より、充実したお話が伺えることと思います。神話のお話を頂く錦田剛志さんは、神在祭の際に八百万の神々が最後に集まれ、宴会をされる万九千神社の宮司さんでいらつしやいますが、直会の席では、必ず直会の大神様が降臨される、神様に愛されている方です。錦田さんが本当に楽しそうに話してくださる神話のお話は勉強になることばかりで、「神話を学ぶのではなく、神話に学ぶことが大切」という言葉をいつも嘯みしめながら聞いています。今日は皆さんと御一緒にお話を伺えることをとても楽しみにしております。

これからも、座長として、微力ながら力を尽くしてまいりたいと思っております。ありのまま生活福祉講座への変わらぬご支援・ご協力を頂けましたら幸いです。ご参会の皆様、講座を通して文化や福祉の世界に一步步近づき機会になることを祈りつつ、私よりのご挨拶といたします。

今さら聞けない?! 神々のお祭りとは奉仕の起源  
古事記より、  
天の岩戸神話に学ぶ



万九千神社 宮司  
錦田剛志氏

島根県出雲市より「来仙くださいました。」

「私は直会(なほらい)が大好きです。直会とはお祭りが終わつた後に神様にお供えしたお食事や美味しいお酒やお神酒をたくさんいただいたり、和気あいあいとみんなで話し合う時間です。私はついにお神酒が過ぎまして、思ってもないことを口走ってしまうこともありすが、今日は素面(しらふ)でちゃんと臨みますので、しばらくの間おつき合いをいただきたいと思っております。」とお話から始まりました。

今からおおよそ1300年以上前にまとめられた、日本最古の歴史書の一つ「古事記」から神々のお祭りと奉仕の起源について楽しくお話をいただきました。

古事記の中に「天の岩戸(あまのいわやど)神話」が描かれています。太陽の女神であり、最高地位である天照大神(あまてらすお

おみかみ)は、岩戸を開けて、岩窟の中にお隠れになりました。そのため空の上も地上世界も真っ暗の夜になってしまいました。その様子をみていた八百万神(やおよろずのかみ/数多くの神)すべての神はみんな集まってどうやったら天照大神が引きこもりから脱却し、この地上世界、天上世界にあかりを再び照らしていただけるだろうかを話し合います。そして、石を握る女神に鏡を作らせ、玉造の祖先の神様にはたくさん連なった玉飾りを作らせました。また古いや祝詞やお供え物の準備が上手な神様には神事を行わせました。そして巫女のルーツの神様は岩戸の前で楽しくおかしく裸になって踊ります。その様子が天上世界の八百万神は大いに笑い盛り上がりました。天照大神は外の笑い声が気になって顔を出した時に、鏡に映る自分をご覧になって動揺し、ついには力持ちの神様に強引に手を引かれて外の世界に連れ出されました。

これがお祭りの起源です。「それぞれの役目と責任を十分に果たして働く、働かせてもらってありがたい」というのが実は日本の神祭りの根源にあります。奉仕の心と祭りの心は一緒です。八百万の神がそうしたように、各々の力がみんなの役に立つと喜びが生まれる。私たち日本人がもつと胸を張って主張す

べきです。お互い様、世のため人のため、おかげ様でありがとう生かされて生きていらっしゃるんです。宗教を超えて大事なことではないでしょうか。」とお話をいただきました。

古事記の言葉を分かりやすくご説明くださり、またアニメのVTRを見ながら楽しく学ばせていただきました。古事記の時代から私たちが生かされていることを実感する機会となりました。



全国の多くのケーブルテレビでは錦田さんが監修し解説する「神主から学ぶ日本神話」が放送されています。また仙台から出雲まで飛行機の直行便もあり、ぜひ足を運びたいなる楽しいお話でした。

素敵に生きよう  
誰かが違いを認めて  
輝く社会を目指して



根木慎志氏

東京パラリンピックをご覧になった方も多いと思います。根木さんはパラリンピック選手村の副村長、NHKの報道センターに連日ご出演され、熱戦をお伝えされました。今回はオンライン配信で東京から貴重な講演をいただき、配信から伝わる笑顔が大変印象的でした。ライフテーマは「出会った人と友達になる」。最後にその意味をよく理解することができました。

根木さんは18歳の時に交通事故で下半身麻痺になり、1年半の入院生活を過ごしました。その後車椅子バスケットボールに出会い、2000年に行われたシドニーパラリンピックの男子バスケットボールキャプテンとして出場されます。また20歳の頃より講演活動をスタートさせ、今年で37年目になり、年間100校の学校を回っておられます。合計すると約4,000校。講演活動を始められた時の

根木さんはこう振り返ります。「最初は自分が困っていることの話が中心でした。車椅子生活でこんなことに困っている、とても悲しい気持ちになると話をすると、みんなが泣きながら僕の話の聞いてくれました。障害者のつらい経験をたくさん知ってもらって、自分に何ができるか考えて頑張ろうねって言うていたんです。なぜか心の中でモヤモヤしたものがありません。」

ある時、講演のために行った学校で車椅子バスケットボールをみんなに見てもらいたいと相談されます。

「最初は競技用の車椅子を持っていきました。一周走ると、一気に子供たちはすごいと言ってくれたんです。次にかっこいいって言うてくれたんです。僕はあまりにも嬉しくて、まだ下手だけどシュートをすることにしたり、みんなが頑張れと応援してくれました。でも全然入らなかつた。根木さん頑張れ頑張れって応援してくれて、リング下でやっとなシュートが決まると、子供たちがうわーっと喜んでくれた。根木さんみたいになりたいとみんなが言いました。僕は衝撃でした。根木さんという人が一生懸命命をさそうに話し、最後まで諦めずにやっている姿を見て、子供たちからはこんな人になりたいという、この人が輝いているという

ことを願ってくれたのかなと思えました。」

次の日から競技用の車椅子をもって講演活動を続けられています。エレベーターがない学校、子どもたちは根木さんを担いで階段を昇ると言い、「階段」が障害であり、「障害」を作ったのは「社会」ということに気づくエピソードもありました。

「私のライフテーマは、出会った人と友達になること。友達は顔かたち一緒じゃないし、好みも違うし、楽しいこと、悲しいこと、苦手なこととも違います。目の前の友達が楽しそうにしていたら楽しいですよ。目の前の友達が頑張っていたら応援しますよね。目の前の人が困っていたら助けますのね。世界中が友達になると、こんな最高のことはないです。世界で楽しいことがあつたらみんな楽しんで、世界のどっかで悲しいことがあつたら悲しむだけじゃなくて、自分たちは何ができるかをみ



スクリーンから笑顔でご講演いただきました。

んなで解決することが僕は大切なのかなと思います。」とお話をいただきました。講演の中では東京パラリンピックの選手村や開会式の様子など貴重なお話もいただき、とても身近にパラリンピックを感じることができました。

とにかく明るくポジティブな楽しいお話に引き込まれました。今世界中で求められている平和。スポーツを通して、人間を通して大切なことを受けとめることができました。

ご参加いただいた方からご感想をいただきました。

- ・ 彬子女王殿下はじめ大変よく聞かせていただきました。
  - ・ 日本人として原点を知ることができた。世界中の人が仲良く、お互い認め合うことが心に響きました。
  - ・ 根木さんの生き方、感じ方に学びました。難しい内容を笑いのある講座でとても良かったです。
- ほか多数

無事開催できました。ありがとうございました。

西多賀エリア

【法人本部】

2022年度

第1回 理事会

令和4年6月1日(水)

年度最初の理事会のため、昨

年度の事業報告・決算(案)、今

年度の補正予算案など6月22

日の定時評議員会でも審議い

ただく重要な理事会となります

また、今回は通常の年度当初の

理事会議案とは別に、今後の法

人の運営にも関わる定款の改正

(案)や、新理事候補者(案)、

各種規程の改正(案)のご審議

もいただきました。

昨年度の事業報告や決算に関

する計算書類などはそれぞれポ

リユームのある資料のため、ポ

イントを絞りながら担当者から

出来るだけ分かりやすく説明を

行ないました。資料が分かりに

くい部分のご指摘や経費削減面

での質問、次の世代へつなぐた



貴重なご意見をいただきました。

めのご意見などのほか、理事の  
皆様同士の意見交換なども賜わ  
りながらも無事に全ての議案に  
ついて承認いただくことができ  
ました。最後に新しい職員の内  
介も行い有意義な理事会となり  
ました。(嶺岸智)

【ホームケア仙台ありのまま舎  
リビングセンター】

5月の拡大感染防止委員会に  
て外出の見直しが話し合われ、  
5月20日より外出が一部緩和  
となりました。これまでは通院  
や権利尊重のための区役所等の  
手続きなど外出が必要な時は事  
前にご相談をいただいていたま  
した。またできるだけ不要不急の  
外出は控えていただき、外出さ  
れた場合は方が一、コロナ感染  
者との接触、濃厚接触者の可能  
性を考え当日を含め3日間の居  
室対応を行っていました。

当法人でも入居者、スタッフ  
の3回目のコロナワクチン接種  
が進み、社会の動向も踏まえ感  
染対策の徹底を条件に感染リス  
クを減らしつつ、可能な範囲で  
行動制限を少しでも緩和すべ  
きと考えました。

現在は、出かける前の体調確  
認、外出先での感染対策を行  
っていたことを前提に近く  
のスーパーやコンビニなど1時  
間以内での外出が可能となりま

した。入居者おひとりおひとり  
に書面で説明を行い、皆さん感  
染対策と時間を守って少しづ  
つ外出する機会が増えてしまし  
た。少し時間がかかってしまっ  
た方は自己申告していただき、  
居室対応もご理解いただいでい  
ます。

1時間以内の外出ではありま  
すが、外出ができることでスト  
レスが軽減し、気持ちや表情に  
も変化がでてきたと感じていま  
す。一方で自粛が続いたため体  
力が低下したことを実感され、  
ひとりでの外出するのは心配と受  
け止めている方もおられます。  
初回、スタッフが歩く道なりに  
同行し距離や道の様子を一緒に  
確認し、歩く距離を少しずつ増  
やすことから始めた方もおられ  
ました。

体調管理を含めた感染症対策  
が日常化してきており、その中  
で少しずつ元の生活に近づいて  
きているのを感じています。

(佐藤環)



外出前後の体調確認、戻られて  
からうがい、手洗い、手指消毒  
を徹底しています!

【サポートケア仙台ありのまま舎  
(難病・障害者相談支援センター)】

就労継続支援B型事業所に通  
所しているAさんは、1年間で

ご家族の状況に大きな変化があ  
り、キーパーソンがお母様から  
お父様へと変わりました。  
6月にサービス担当者会議を  
実施し、初めてお父様とご親族  
の方にも出席して頂きました。  
Aさんは小さい頃からケイキ屋  
さんになるのが夢で、今の事業  
所を辞めたくない気持ちはある  
ものの、別の場所でも働いてみる  
のもいいかもしれないと思い始  
めていました。会議の中では、  
Aさん、お父様、ご親族それぞ  
れの思いを伺い、皆で共有する  
ことができました。

ご家族の状況が変わり、グル  
ープホームや短期入所の利用も  
検討が必要になってくるのでは  
ないかという話も出ました。環  
境を変え、そこに慣れるには大  
きなエネルギーが必要になると  
思います。これから先、何を優  
先して考えていくか、Aさんに  
考えて頂く時間を作り、その思  
いを一番にサポートしていきたい  
と思います。(石黒ゆに)

茂庭台エリア

【難病ホスピスケア太白ありのまま舎】

【メディカル】

新型コロナウイルス感染症のパンデミ  
ックから約2年半が経過してい  
ます。施設では、ゾーニングな  
ど様々な感染対策や定期的な勉  
強会を行い、メディカルで毎月  
発行している瓦版でも情報を発  
信してきました。現在まで入居  
者の感染はゼロですが、まだま  
だ安心はできません。3回の予  
防接種では心配もありましたが、  
副反応の症状が出現した方でも  
一時的な発熱など軽症だったこ  
とに安堵しました。まだまだ緊  
張の続く中、最近施設で看取つ  
た方がいました。意思表示が困  
難な方で、自分の伝えたいこと  
も伝えられず辛い時もあるだろ  
うなと思いつつながら日々ケアにあ  
たっていました。時折見せて  
くれる笑顔には私達の方が癒さ  
れる思いでした。最後の時、沢  
山の スタッフが声を掛け見守  
るなか旅立たれました。まるで  
眠っているだけの様な安らかな  
お顔だったことは、辛く悲しい  
中でも唯一救われる思いでした。

マンパワー不足が続いてはい  
ませんが、感覚を研ぎ澄まし、洞  
察力を高め、入居者の方々の異  
常の早期発見や思いをキャッチ  
出来るよう努めていかなければ  
と思う日々です。(駒板美佐恵)



【チャイルドケア

仙台ありのまま舎保育園】

あつという間に梅雨が明け、晴れの日は真夏の暑さを感じますね。水遊びも始まりました。様子を伺いながら少しずつ遊びに参加したり、大喜びで水に濡れることを楽しんでいたり様々な反応を見せてくれる子どもたちです。水遊びは、大人も楽しく、子どもたちと一緒に賑やかにバワフルに遊んでいます。

行動制限が緩和した今年の夏は家族で海や川、プールに行くこともあるかと思えます。大人も開放的な気持ちになります。子どもたちは普段と違う遊びや場所に、余計に気持ちが高揚し注意が向けなくなることも。その様子について感情的に怒ってしまったりあるかと思えます。しかし、せっかくの家族で楽しいお出かけです。できるだけ怒らないで過ごしたい。そのため、多少の予定のズレがおきても大丈夫なように時間に余裕を作る、小さな子どもにはイレギュラーなことは必ず起きる前提で、荷物の準備や下調べをして対処法を話し合っておくことが大事。そうすることで突発的なことには驚かず、気持ちに余裕がきますね。家族で話し合いを大切に、楽しい夏を過ごしてくださいね。

(春日麻里)

1976年2月25日 第3種郵便物認可 (毎週4回月・火・木・金曜日発行)

【サポートケア名取ありのまま舎

(難病・障害者相談支援センター)】

今回も「相談者さんへの「インタビュー」」ということで、第3回はHさんをご紹介いたします。

Hさんは、就労継続支援B型事業所でお仕事されている20代の女性です。作業内容はギブト用のタオルを畳むなどの内職作業がメインです。仕事の覚えが早く作業が丁寧と、通所先から高い評価を受けています。シャイな方なので、いつも小さな声で、とても楽しそうに話をしてくれます。

一、楽しみにしていること

「オトツペ(Eテレのアニメ)を見たり、仕事の帰りに立ち読みをすること。最近のお気に入りの漫画は「魔入りました!入間くん」だそうです。

二、頑張っていること

「お仕事頑張ってる。祝日がない月はリフレッシュ休暇を1日取ることで気持ちのバランスを取っているようです。

三、目標など

「また良い映画があつたら観に行きたい。」先日、初めて映画館に行き、オトツペの映画を観てきたとのことでした。年3回のボーナスをムダ遣いすることなく貯めて、上手にやりくりしているようです。

(熊谷経子)

【サポートケア県南ありのまま舎

(難病・障害者相談支援センター)】

6月に岩沼市からのご案内で被災者支援情報交換会議に出席しました。2つのグループに分かれての意見交換で民生委員、町内会、地域包括支援センター、行政機関などの普段からの地域防災の取り組みを共有させていただく貴重な場面でした。冒頭の自己紹介で「岩沼市の良いところ」を付け加えて下さいとの進行者からの指示があり、私は話した岩沼市の良いところは「美味しいコロッケが売っているお肉屋さん、お気に入りのお肉屋さんがあること」とお話ししましたが、他の出席者は気候風土や外出スポットなどの素敵なアピールが続き、少々反省させられた思いでした。

これを亘理町に置き換えると「美味しい海鮮丼のお店があること、就労継続支援B型事業所の弁当やおやきが美味しいこと」が出てくるのですが、利用環境的には特に身体障害のある方が気軽に食事や買物に出入りすることが難しいハード面の環境だったと思います。普段の暮らしの中で食の楽しみやバランスを考えた食の健康も相談支援の中では大きなキーワードになると思っています。楽しみをもった情報の提供にも努めていきたいと思えます。

(齋藤栄樹)

【サポートケア亘理ありのまま舎

基幹相談支援センター】

地域の相談支援体制の強化の取組事業の一環として、「亘理町相談支援事業所連絡会」にて事例検討を実施しております。事例検討では専門員としてのスキルアップや事例検討から見えてきた地域課題を共有し、亘理町障害者等地域自立支援協議会と連動を図り解決していくことを目的としております。

事例検討では、今年度からクライエントを理解するための質疑応答後に、参加者及び事例提供者から「クライエントはこんな人/こんな風に生きてきた人であるということ」を言語化し、集められた情報によって思い描かれるクライエント像と、さらにクライエントを取り巻く状況について何が起きているのかを見立てるセッションを新たに設けました。また、連絡会では関係機関の方々をお招きし事業所紹介も行ってまいります。相談支援事業所と関係機関との間で顔の見える関係づくりと連携・協働のもと支援できる体制づくりが構築できればと思います。今後も相談支援専門員が参加してよかったですと思えるような連絡会を考えて参りたいと思えますので宜しくお申し込み申し上げます。

(菊地理)

山田かぎとり眼科

022-748-7657

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	休診
14:00~17:00	○	手術	○	○	○	休診	休診

〒982-0818 宮城県仙台市太白区山田新町82 (K'sケースデンキ仙台太白店そば)

診療に関するお問い合わせや当院に関するご質問、ご要望などお気軽にお問合せください

県南エリア

【難病ホスピスケア亘理ありのまま舎】  
【栄養マネジメント】

食中毒が流行る季節となっております。施設では食材の温度管理(冷蔵4度以下、冷凍マイナス23度以下)や調理の温度管理(中心温度85度1分以上の加熱)を徹底しております。ご家庭ではなかなかこの温度管理は難しいと思いますが、その中でもできる食中毒予防6ポイントをご紹介します。①食品の購入・消費期限の確認や肉汁や魚等の水分が漏れないようそれぞれの袋に入れる。②家庭での保存・食材を持ち帰ったらすぐに冷蔵、冷凍庫に入れる。冷蔵・冷凍庫の詰めすぎには注意しましょう。(7割程度)

③下準備・肉・魚、野菜でまな板を分ける。冷凍食品の解凍は冷蔵庫や電子レンジを使う。④調理・十分に手を洗いましょう。中心温度75度以上1分以上的加熱が目安です。途中で調理をやめる場合は冷蔵庫で保管しましょう。

⑤食事・十分に手を洗いましょう。調理前・後の食品は長時間室内に放置してはいけません。

⑥残った食品・ちよつとでも怪しいと思ったら思い切って破

棄しましょう。温めなおすときも75度以上を目安にしてください。

ほんの一部ですが紹介させていただきますました。施設でもこれ以上に厳しい条件で管理し食中毒予防に努めてまいります。

(坂本朋絵)



食中毒に注意して夏を乗り切りましょう。

【バザー開催日のご案内】

(8月)

2日(火)ヨークハム山田鶴取店 (太白区)

4日(木)ヨークハム大和町店 (石林区)

9日(火)ヨークハム南宮成店 (置賜区)

11日(木)鶴ヶ谷年餅いちば (宮城県区)

16日(火)ヤマザク茂庭店 (太白区)

25日(木)鶴ヶ谷年餅いちば (宮城県区)

27日(土)ありのままショップセル (仙台ありのまま舎)

30日(火)袋原(向口整髪)ソフサポートセンター(太白区)

「ご支援頂きありがとうございます」  
「ございました(敬称略)」

【書き換じはがき等】

22 5/25 ~ 6/24

(鈴木一彦)

【バザー提供】

22 5/27 ~ 6/29

ボトルカンパありがとうございます  
「ございました(敬称略)」

22 5/25 ~ 6/24

サンマリ国見店(青葉区)

19,031円

この度も硬貨でいっぱいのおトクをお寄せ頂きました。店員の皆様もお客様も私どものボトルを気に留めて下さるご様子を感じ、嬉しく思いました。(鈴木一彦)

ありのまま舎後援会(敬称略)

22 5/18 ~ 6/14

ありがとうございました。  
(事務局 佐藤環)

【自販機販売設置支援】

◆サントリービバレッジ

5月分の売上の一部を「寄付頂きました。」

こくみん共済coop

宮城推進本部 1,336円

ありのまま舎(自立ホーム・

太白ありのまま舎・サポートケ

ア県南・亘理ありのまま舎)

14,581円

【後援会員を募集しています】

◆年間会費(途中退会も可能です)

・個人会員 10,000円

・法人会員 20,000円

・賛助会員 3,000円

「ご支援をお願いいたします。」

「協力ありがとうございます」  
「ございました(敬称略)」

【本部】

◆ありのまま生活福祉講座会場にて、受付のお手伝いをいただきました。◆会報発送のための帯封の糊付けを、仙台西高等学校JRC有志・東北学院榴ヶ岡高等学校有志・個人の皆様に感染症対策を取りながらお手伝いいただきました。◆会報の折り込みは、日本基督教団東北教区婦人会の仙台川平教会、いずみ愛泉教会の皆様、教会内にてお手伝いいただきました。◆バザー会では、販売や片付けなどお手伝いを継続してお手伝いいただいています。また、ショッブセールの会場でも準備や片付け等お手伝いいただきました。

【太白ありのまま舎】

◆宮城県車いすダンス協会様

による「車いすダンス」◆仙台

シルバーネットの皆様による

「読書会」◆茂庭台ボランティア

グループの皆様による「気ま

まに書く会(書道)など施設内

で行う活動は、引き続きお休み

させていたいております。

毎月、感染状況など確認し感

染対策を協議しています。また、

入居の施設においては入館を制

限させていただいておりますが、

大丈夫になりましたら是非再開

をお願いしたいと思っております。

(中村悦子)

1976年2月25日 第3種郵便物認可 (毎週4回月・火・木・金曜日発行)

### スクラップ

#### 「文化や福祉の世界へ近づいて」

「第33回ありのまま生活福祉講座」  
 (ありのまま会、河北新報社など主催)  
 が1日、仙台市青葉区の市福祉プラザ  
 であった。新型コロナウイルス感染拡  
 大の影響で3年ぶりの開催となり、オ  
 ンラインも含めて市民ら約100人が  
 参加した。

講座の座長を務める三笠宮彬子さま  
 (40)は「文化や福祉の世界に一步步づ  
 く近づかなくてはいい」とあいさ  
 つされた。

出雲市の方九千神社宮司の錦田剛志  
 さま



講演の前にあいさつする彬子さま

仙台・三笠宮彬子さまらが講座

氏は今さら聞けない?! 神々のお祭り  
 と奉仕の起源と題して講演。天の岩戸  
 に隠れた天照大神を神々が誘い出す  
 古事記の神話を解説し、「それぞれの役  
 目や責任を十分に果たして働く。奉仕  
 の心と祭りの心は一緒で、自分だけが  
 良くなるのではなく、みんなが良くな  
 ることに人は喜びを感じる」と語った。

車いすバスケットボール元日本代表  
 主将の根本慎志氏は「素敵に生きよう」  
 と題し、誰もが違いを認めて輝く社会  
 の大切さを強調した。

河北新報朝刊 6月12日(火) 掲載  
 東北放送 6月11日(土) 夕方のニュー  
 ースで放映されました。

#### 業 務 内 容

社会保険や労働保険手続・助成金申請代理・会社設立・各種許認可申請・労働や経営相談 他

お気軽にご相談ください。

## 社会保険労務士・行政書士 須田事務所

〒981-0916 仙台市青葉区青葉町16-1・2階 TEL: 022-344-8620 FAX: 022-344-8621